



合格作戦

同じ語だから、
意味を比べなが
ら覚えよう。

古語(1)

現代と意味のちがう語

3

次の文章を読んで、あとの問いに答えよ。

① 陰陽師有宗入道、鎌倉よりのほりて、尋ねまうで来りしが、まづさし入りて、「この庭のいたづらにひろきこと、^②浅ましく、あるべからぬ事なり。道をしるものは植うることをつとむ。ほそ道ひとつ残して、皆島につくり給へ」といさめ侍りき。誠^③に、少しの地をもいたづらにおかんことは、益なき事なり。くふ物・葉種^④などを植ゑおくべし。

〔注〕 ①吉凶のうらないや地相などをみる人、「おんようじ」とも読む。

②探してやってきたが、 ③驚きあきれたことで、 ④忠告しました。

⑤無益なことだ。 ⑥葉の材料となる植物。

問一 線①④の「いたづらに」の共通する意味として最も適当なものを、次の中から一つ選び、記号で答えよ。

- (ア) むだに (イ) 困るよう (ウ) 気まぐれに (エ) たいへんに

問二 線②「あるべからぬ事なり」の現代語訳として最も適当なものを、次の中から一つ選び、記号で答えよ。

- (ア) めったにないことだ (イ) よくあることだ
(ウ) よろしくないことだ (エ) よろしいことだ

問三 線③「道」の意味を二字の漢語で表すとすれば最も適当なもの
はどれか。一つ選んで記号で答えよ。

- (ア) 仏道 (イ) 道徳 (ウ) 道路 (エ) 道理

チェック「コ」が出る!

〈同じ語なのに、昔と今で意味の異なる語〉
「古今異義語」ともいわれる。そのおもなものを次に掲げてみよう。

〔語〕	〔現代の意味〕	〔昔の意味〕
あした	翌日	朝・翌朝
あはれ	かわいそう ※現代では「あわれ」と書く	趣がある
ありがたし	うれしく思う	めったにない
いたづら	わるふざけ ※現代では「いたずら」と書く	むだである
うつくし	美しい	かわいらしい
おとなし	おとなしい	おとなびている
おどろく	びっくりする	目をさます
かしこし	りこうだ	おそれ多い
かたし	かたい	むずかしい
きこゆ	聞こえる	申し上げる
けしき	風景	ようす
こちら	このあたり	たくさん・多く
さうざうし	さわがしい ※現代語では「そうざうしい」	さびしい
なかなか	非常に	かえって
にほふ	においがする ※現代では「におう」と書く	色が美しい

4

次の文章を読んで、あとの問いに答えよ。

人あつまり居りて語る中に、ちと仮名をもよむ人の、「この程つれづれ草を再々見てあそぶが、格別味はひ深うさうらふよ。」と言ひければ、その座にゐたる人のさしいでして、「さほどに口あたりよしと思して、あまり多く参るな。つれづれ草のあへ物も、過ぐさば毒と聞いたに。」とぞ言ひける。

〔注〕 ①さしいで＝出しゃばること。 ②あへ物＝野菜などを、酢みそ・こまなどと混ぜ合わせて調理したもの。

問一 ― 線「参る」の意味を調べるために、ある辞書を引いたところ、

その中に次の(ア)～(イ)までの説明があった。ここの意味にあたるものはどれか。最も適当なものを一つ選び、記号で答えよ。

- (ア) 降参する (イ) 参拝する (ウ) 参上する
- (エ) 召し上がる (オ) さし上げる

問二 この話のおもしろさはどんなところにあるか。次の中から最も適当なものを一つ選び、記号で答えよ。

- (ア) ふるまった料理をほめられて、これ以上多く食われてはたまらないと、あわてた人のけちん坊ぶり
- (イ) 珍しい草の名前を初めて聞いて、料理用の野草の話であると、誤ってしまった人の食いしん坊ぶり
- (ウ) 有名な書物の名を知らないばかりに、食べ物の話と早合点して、忠告までした人の見当ちがいぶり

- (エ) 万病に効く薬草を手に入れて自慢する人に、薬も飲み過ぎると毒になると、皮肉る人の意地悪ぶり

〔香川〕

- ののしる 悪口を言う 大声で騒ぐ
- ふるさと 生まれ故郷 なじみの土地
- めでたし よろこばしい すばらしい
- やうやう やつと しいに
- やがて ※現代では「ようよう」と書く まもなく そのまま
- をかし ※「すぐた」の意も覚える ※現代では「おかし」と書く 趣がある

解法のコツ

3 問一 広い庭、けっこうではないか。だが陰陽師は、広いだけでは意味がないという

のだ。陰陽師の不満のもとを考えよう。

問二 よく見かける立て札に「入るべからず」がある。これは、「入ってはいけない」という意味。

問三 (イ)か(ウ)か迷うところ。次を参考にしよう。

(イ) 人間本来の生き方を知る者は、植樹に努める。

(ウ) 庭本来のあり方を知る者は、植樹に努める。

4 問一 スリーヒントクイズ。「口あたりよし」「草のあへ物」「過ぐさば毒」

問二 兼好法師の「徒然草」の「草」は、「野の草」ではなく「草子(冊子)」という意味である。



合格作戦

数も少ない。おもなものも頭にたたきこもう。

古語②

古文特有の語

5

次の文章を読んで、あとの問いに答えよ。

笛は、横笛いみじうをかし。遠うより聞ゆるが、やうやう近くなりゆくもをかし。近かりつるがはるかになりて、聞ゆるもいとをかし。車にても、徒歩②よりも、馬にても、すべて、ふところにさし入れて持たるも、なにとも見えず、さばかりをかしき物はなし。まして聞き知りたる調子などは、いみじうめでたし。

(枕草子)

問一 線①「やうやう」の口語訳として最も適切なものを、次の中から一つ選び、記号で答えよ。

- (ア) 急に
- (イ) すぐに
- (ウ) しだいに
- (エ) しばらくして

問二 にあてはまる最も適切なものを、次の中から一つ選び、記号で答えよ。

- (ア) いとすさまじく
- (イ) いとつれなく
- (ウ) いと心ぐるしく
- (エ) いとほのかに

問三 線②の部分の「より」について、辞書では次の(ア)～(エ)のように説明されているが、この文の内容から考えて、最も適切なものはどれか。記号で答えよ。

- (ア) 経過する場所を示す
- (イ) 比較の基準を示す
- (ウ) 手段・方法を示す
- (エ) 起点を示す

(高知)

チェック「口」が出る！

〈今では見られない、古文特有の語〉
昔は使われたが、今は使われていない古語のおもなものは、その意味を覚えておこう。

〔古語〕

- いと
- いとど
- いみじ
- うし
- かく
- かち
- げに
- さ
- さうらふ
- さらなり
- たまふ
- つきづきし
- つとめて
- つれづれなり
- とく

〔意味〕

- たいへん・とても
- いつそう・ますます
- はなはだしく
- つらい
- このように
- 徒歩とほ
- ほんとうに
- そのように
- お仕える・あります
- 「そうらう」と書く
- 言うまでもない
- おくになる・くなさる
- ふさわしい
- 早朝・翌朝
- することがなく退屈だ
- 早く

6

次の文章を読んで、あとの問いに答えよ。

名利の巷①にはしり貪欲どんぶくの海におぼれて、かぎりある身を苦しむ。わきてくれゆくとしの夜のありさまなどは、いふべくもあらずいとうたてきに、人の門たたきありきて、ことごとしくのしり、あしをそらにしてのしりりあけて通り過ぎる様子などはもてゆくなどこそ、あさましきわざなれ。

さどさどておろかなる身は、いかにして塵区ちんくをのがれん。

としくれぬ笠着てわらぢはきながら (芭蕉)

片隈くまによりてこの句を沈吟しんぎんしはべれば、心もすみわたりて、かかる身に

しあらばといとたふとく、私わたしがための摩訶止観まかし観ともいふべし。

問一 線①は、世俗にまみれた生き方を比喩的に述べたものであるが、そんな俗世間のことを他に何と表現しているか。文章中からさがして、一語で答えよ。

問二 線a～dの意味として最も適当なものを、それぞれ次の中から選び、記号で答えよ。

- (ア) そうはいつても (イ) なかでも
- (ウ) どうやって (エ) たいそう

問三 この文章を読み解く際、ある文の途中に「いいのになあ」という感慨のことばを補うとわかりやすくなる箇所がある。どこに補えばよいか。前後の原文三文字ずつを書け。

〔宮崎〕

- ねんず
 - のたまふ
 - はべり ※「待り」とも書く
 - ふみ ※「待り」とも書く
 - やまのは ※「山の端」とも書く
 - よに
- 祈る・がまんする
おっしゃる
お仕える・あります
書物・手紙・漢詩・学問
空に接する山の陵線りょうせん
実に・決して

解法のポイント

5 問一 笛の音は、常に聞こえながら「近うなりゆく」のである。

問二 笛の音は、はるか遠くになるとどう聞こえるのだろうか。選択肢にある古語の意味は、次のようになる。「すさまじ」|| つまらない・もの寂しい。「つれなし」|| 無情で寄りつけない・気にとめない。「心ぐるし」|| 気がかりだ・気の毒だ。「ほのか」|| かすか・ほんのり

問三 車・徒歩・馬と並べば、この三つの共通点は何だろう。

6 問一 筆者は俗世間から逃れたいのだ。

問二 特に俗っぽさの目立つのが大みそか。だが筆者もこの俗世間から抜け出す自信はない。

問三 「いいのになあ」の前には、「もしこうだったら」があるはず。それをさがそう。